

# 「SDGs (Sustainable Development Goals) に 貢献する教育システム」特集号の発刊にあたって

田中 孝治

(金沢工業大学情報フロンティア学部, 学会誌編集委員会幹事)

## 1. はじめに

本特集号では、社会における需要が急速に高まっている、持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) をテーマとした「SDGs に貢献する教育システム」に関する論文を幅広く募集した。2015年9月に国連で採択されたSDGsでは、地球上に山積するさまざまな課題の解決が国際目標として掲げられている。SDGsは、17の目標と169のターゲットから構成され、その一つには、「包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ことが挙げられている。こうした状況において、「持続可能な開発を促進するために必要な知識・スキルの習得」のための学習環境の充実が求められている。SDGsの採択から5年が経過し、年限である2030年に向けて、近年における教育システム情報学領域における知見が共有されることによって、SDGsに貢献する教育システムのさらなる発展が期待できる。

## 2. 論文の投稿数と判定結果

2020年6月11日のエントリ締切、2020年の6月18日の論文投稿締切を経て、11編 (一般論文7編、実践論文3編、ショートノート1編、実践速報0編) の投稿があった。査読においては、採録可否の判定とともに、特集号と整合する内容であるかについても厳正に審査した。その結果、一般論文1編を一般号での採録とした。そのため、最終的な特集号の採録は3編 (一般論文1編、実践論文0編、ショートノート1編、実践速報1編) となった。投稿本数自体は、ここ数年と遜色はなかったが、採択率は36% (一般号としての採録も含む4件/投稿数11件) とここ数年

に比べ低い結果となった。これは、SDGsに関する教育研究領域の多くが、実践内容に対する学習効果の評価の難しさを有していることが起因していることが考えられる。

また、判定に至っては、1回目判定において、あくまで論文として採録に値するかを判断し、そのうえで、「特集号として採録されるためには、〇〇の条件を満足してください」など、採録判断に加えて特集テーマとの適合性についてコメントを付記した。改稿投稿時に著者がその充足が困難であると判断した場合や2回目判定において充足していないと判断した場合には、一般号に戻っていただくこととした。

特に注意を払ったのが、「教育・学習支援でありGoal 4 “質の高い教育をみんなに”と関連する」や「SDGsの一つに防災教育/看護教育が挙げられる」といった表面的な関係性の記述をもって、特集テーマと適合していると判断しないようにしたことである。これを可とすれば、本会に投稿される論文のほとんどが特集テーマの対象となるので特集号の意味をなさなくなると考えたからである。

なお、遠山らの一般論文はGoal 16「平和と公正をすべての人に」、高橋らの実践速報はGoal 4「質の高い教育をみんなに」とGoal 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、田中らのショートノートは全17ゴールと関連づけられている。それぞれのリサーチクエッションおよび面白さは、採録論文ハイライトに筆者自身の言葉でまとめられているので、ここでの紹介は省略する。

## 3. 特集論文研究会

2020年3月14日に千葉工業大学津田沼キャンパ